

④ 第4委員会

「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」



それでは、第4委員会の意見を発表します。

第4委員会のテーマは、「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは8月18日に^{とうごくさん}東谷山フルーツパークの^{しせつ}施設見学を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは、ふだん見られないたくさんの種類の植物の実や花を見ました。そして、一つの物だと思っていた^{くだもの}果物には、いろいろな種類があることがわかり^{おどろ}驚きました。さらに、育てている人の苦労や工夫がわかりました。

また、アセロラはゼリーなどで給食に出ていて身近なフルーツだと思っていたけれど、花や実が^{きちょう}貴重だということがわかり、給食がぜいたくだなと思いました。

その後、^{わたし}私たちは、^{しせつ}施設見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするためには何をすればいいか、考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

^{わたし}私は、小中学校でのフルーツパーク見学をもっと^{すす}薦めたほうがいいと思います。

理由は、「自然に親しみ、生き物を大切にするまちづくり」を行うには、市民が植物についてよく知る必要があるからです。

先日の^{けんしゅう}事前研修会のバスの中で、「フルーツパークに行ったことがある人」と聞かれたとき、「行ったことがない」と答えた人のほうが多くいました。^{わたし}私も初めて行ったのですが、植物の種類が多さに^{おどろ}驚きました。せっかくこんなに^{しせつ}勉強になる施設なので、もっと活用するために、小中学校に重点を置いてPRすることを^{ていあん}提案します。

○子ども議員

^{ぼく}僕は、^{とうごくさん}東谷山フルーツパークに行って、このような^{しせつ}施設をもっとつくったほうがいいと思います。

なぜなら今、このように自然と^ふ触れ合える^{しせつ}施設が全国的に少なくなってきたからです。ゲームセンターなどの人工的な^{しせつ}施設が増えてきています。一方、自然に親しむことができる場所は、木も多^{かんきょう}くて^{ふせ}環境問題も防げるのではないかと思います。

そして何より、今の時代、自然のことについて知っている人は少ないです。^{かんきょう}環境のことや生き物を大事にする大切さを学ぶ場所がないと、自然に^ふ触れ合うことはできないと思います。

○子ども議員

私は、東谷山フルーツパークを見学して、植物の恵みに感謝することができ、植物をふやしていこうと改めて思いました。

だから、この施設のように自然をテーマにした施設をふやしていくのがよいと思います。私のように感じた人がふえれば、自然を守っていこうと思う人がふえると思いました。

自然があるところには生き物が暮らしています。なので、東谷山フルーツパークのように自然と触れ合い、その恵みに感謝できるような施設をふやしていくのがよいと思います。

○子ども議員

アセロラは今は身近な食べ物で、ゼリーやジュースなどありますが、アセロラの花はとても貴重で傷みやすく、育てるのが大変だということを、東谷山フルーツパークを見学したときに話を聞いて知りました。

僕は、給食でアセロラゼリーが出たときに感謝をして食べることが大切だなと思いました。学校みんなにも教えてあげたいと思います。

○子ども議員

僕は、いろいろな植物を見て、果物には見たことはあるけれど、食べたことのない果物や、聞いたことも見たこともない果物があると思いました。例えば、ドリアンやブッシュukanなどです。

それで、生き物を大切にするには、植物一つ一つを大切にしようと思いました。なぜなら、生態系を崩しかねないからです。

○子ども議員

私たちの住む名古屋には、それぞれ特色を生かした三つの農業公園があります。そのうち果樹がテーマの東谷山フルーツパークを視察してきました。

よく知っている植物のほかに、世界の熱帯果樹温室には、珍しい熱帯の植物や果実がありました。施設を見学してみて、育てる人の御苦労や工夫も知ることができました。

名古屋には自然や生き物に親しむ施設がたくさんあります。もっとたくさんの市民に利用してもらい、名古屋の人々が優しい心で思いやりを持ち、愛情あふれるすてきなまちになることを願います。

○子ども議員

自然に親しむということについては、たくさんの人に自然は大切だということを知ってもらうために、楽しく自然について学べる施設しせつをふやしていけたらいいなと私わたしは思います。

次に、生き物を大切にすまちということについては、いつ津波つなみが来てもいいように高い場所をつくり、その場所をみんなが確認かくにんし、津波が来たときにしっかり逃げられるといいなと私わたしは思います。

○子ども議員

僕ぼくは、東谷山とうごくさんフルーツパークに行って、自然に親しんだり、生き物を大切にすることをたくさん学んできました。

例えば、果物くだもののレプリカを展示てんじして、自然くだものの果物に親しみを感じられたり、リンゴなし、梨などには鳥よけネットをかけたり、ブドウには袋ふくろをかけて鳥や病気から守ります。

こういう自然に親しみ、生き物を大事にする思いやりが東谷山とうごくさんフルーツパークにはあると思います。その思いやりを名古屋市民が持てば、みんな自然に親しみ、生き物を大事にするので、名古屋市が「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」になるとと思います。

○子ども議員

現在げんざい自然しぜんが破壊はかいされ、地球ちきゅう温暖化おんだんかが進み、地球ちきゅうが危機ききに陥おちいっています。空気くわいをつくる植物しょくぶつをたくさんふやすことで地球ちきゅうを救えるかもしれないのです。二酸化炭素にさんかたんそを多く排出はいしゅつする名古屋なごやに、森林しんりんをたくさんつくるのが、「自然しぜんに親しみ、生き物を大事だいじにするまちづくり」の一番の近道きんみちだと思います。

○子ども議員

僕はぼく、名古屋なごやを「自然しぜんに親しみ、生き物を大事だいじにするまち」を東谷山とうごくさんフルーツパークで学びました。東谷山とうごくさんフルーツパークでは、温室おんしつ、大温室おほいおんしつというものがあり、そこでは90種類くだものの果物くだものが育てられています。僕はぼく、東谷山とうごくさんフルーツパークで育てている種類くだものが多くてびっくりしましたが、これを名古屋なごや中に広めるのがよいと思いました。けれども、名古屋なごや駅えきなどでは育てる場所ばしょがないので、とても無理無理だと思いました。そんな話はなしをお母さんおははとしていたら、「ビルの屋上やじょうではどう」と言われました。それはよい考えかんがだと思います。

僕はぼく、これらのことことで、名古屋なごやにも工夫くわふすれば果物くだものやいろいろな植物しょくぶつを育てられると考えかんがえました。

○子ども議員

わたし 私は、とうごくさん 東谷山フルーツパークに見学に行きました。フルーツパークでは、いろいろな植物や花などを見ることができました。中にはアセロラの花やパラミツなどのめずら珍しいものもありました。ブドウなどのかじゅ果樹園では、育てている人の工夫や苦勞を知ることができました。フルーツパークでとれたフルーツはおいしくて、育てている人の工夫や苦勞があって、こんなにおいしい物ができるんだなと思いました。これからも自然を大切にしたいです。

○子ども議員

ぼく 僕は、フルーツパークに行って、味がいい、それがまず大切だと思います。何でかというのと、植物イコール自然に親しみやすいものといったら、僕はぼく くだもの 果物だと思うんです。庭にちょっとしたキュウリやイチゴを植えることが、例えばイチゴだったら受粉させることや水をやること、それが日課になり、自然に親しめると思うんです。生き物を大事にするまちづくり、これはまずは生き物を好きになることが重要だと思います。

あと、生き物をせきにん責任持かって飼う、これも生き物を大事にするまちになる一つだと思います。「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」になるには、自分ができるところをやる、それがまず一番だと思います。

○子ども議員

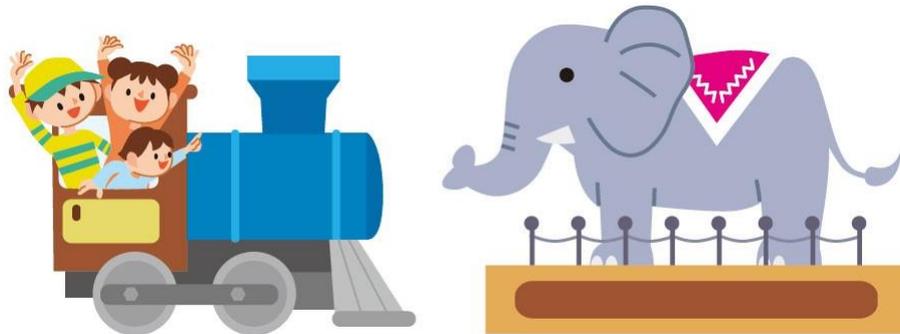
名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするために僕が考えるのは、生き物のすみ場所を考えた土地開発を進めるということです。

なぜなら、生き物のすみかをなくしてしまってはいけないからです。

また、公共交通機関を使用し、CO₂も減らすことも大事だと思います。

それから、講習会や体験講座などを利用して、植物や自然に関する知識を深めることも大切だと思います。なぜなら、よりよく自然とかかわることができると思うからです。

私たち第4委員会は、このようなことが、名古屋を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするために必要だと考えました。これで、第4委員会の発表を終わります。



■ 田口土木交通委員長の答弁

第4委員会の子ども議員の皆さん、立派ですばらしい発表をしていただきました。

第4委員会では、「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」をテーマに、子ども委員長、子ども副委員長が中心となって、委員の皆さんが活発な議論を行い、たくさんのご意見や御提案をいただきました。ありがとうございました。

皆さんが1日目に施設見学に行った先は、ただいまの発表にもありましたように、東谷山フルーツパークでした。私は皆さんと一緒にフルーツパークに出かける前は、食卓に並んでいるフルーツ、果物と自然に親しむ、生き物を大事にすることがどのように結びつくのか、大変難しいテーマだなと思っていました。しかし、皆さんはこの3日間の中で、このテーマにしっかりとした答えを出してくれたと思います。

フルーツパークの世界の熱帯果樹温室で見たアセロラ、ふだんは給食でゼリーなどとして食べていますけれども、その実は大変傷みやすく貴重なものだということを知り、こうした自然の恵みに感謝して食べることが大切ということを知りましたね。

フルーツパークでは、そこでとれたリンゴや梨、ブドウなどを試食しました。おいしかったですけれども、それは梨園ではネットが張られ、ブドウには袋がかけられ、風や鳥、病気などを防ぎながら育てるといった栽培の苦労や工夫があるからこそおいしく食べられるということも学びました。



そして、皆さんからは、フルーツパークのような自然と触れ合い、その恵みに感謝できる施設をふやしていく。小中学校の児童生徒を初め、もっと多くの市民にこうした施設を利用してもらう。また家庭の庭や都心部のビルの屋上などで植物を育てる取り組みを広げる。生き物のすむ場所を考えて開発を行う。こうした取り組みが、優しい心と思いやりを育み、「自然に親しみ、生き物を大事にするまちづくり」につながるという提案をいただきました。

果物を題材にした名古屋のまちづくりに関するすばらしい提案だと思います。しっかりと受けとめさせていただき、私たちも名古屋市を「自然に親しみ、生き物を大事にするまち」にするために努力してまいります。

最後に、私たちも皆さんと御一緒する中で、たくさんのことを学ばせていただきました。山田副委員長、中村副委員長、そして松橋先生とともに、皆さんに感謝を申し上げて、答弁とさせていただきます。ありがとうございました。

